

模擬電子カルテを活用した看護実践力育成の取り組み

田久保 由美子¹⁾, 篠木 絵理¹⁾, 石井 まりえ¹⁾, 佐野 貴康¹⁾

1) 東京医療保健大学 千葉看護学部

y-takubo@thcu.ac.jp

Developing Nursing Practice Skills Using a Simulated Electronic Health Record

Yumiko Takubo¹⁾, Eri Shinoki¹⁾, Marie Ishii¹⁾, Takayasu Sano¹⁾

1) Chiba Faculty of Nursing, Tokyo Healthcare University

概要

学生個々の看護実践力育成をねらった取り組みを強化するため、教育用電子カルテ (Medi-EYE, Medi-LX 社)、看護教育用ビデオなどのデジタルコンテンツを活用し学内実習の充実を図った。本稿ではその取り組みと課題について報告する。

1 はじめに

本邦の0~14歳の年少人口が総人口に占める割合は11.8%と世界的にみても低く [1]、医療施設調査によると小児科を標ぼうする施設数は、一般病院、一般診療所共に減少が続いている [2]。看護学実習は、看護の知識・技術・態度を統合、深化し、検証することを通して、実践へ適用する能力を修得する授業であり、次世代の看護系人材を育成する重要な教育・学修の場である [3]。しかし、少子化に加え、近年の看護系大学の増加により、小児看護学実習における実習施設の確保は困難な現状である。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、臨地実習の内容の変更、学内実習への代替を余儀なくされ、臨地以外で教育代替する際、臨地も含めどのように教育をデザインするのが大学の課題として挙げられている [4]。

本学部は2018年に開設し、小児看護学領域の実習は、新型コロナウイルス感染症影響下の2021年度に初回開講した。開講2年目を迎え、学生個々の実践力育成をねらった取り組みを強化するため、デジタルコンテンツを活用した学内実習の充実を図った。本稿ではその取り組みと課題について報告する。

2 小児看護学領域の実習概要

小児看護学領域の実習は、4年次前期科目である母性・小児看護学実習 (5単位, 5週間) のうち

2単位 (2週間) に相当する。こどもとその家族を理解し、こどもの成長・発達および健康レベルに応じた小児看護の実践に必要な基礎的能力を養うことを目的とし、行動目標は以下の5つである。

①こどもの成長・発達について身体的・心理的・社会的側面から説明できる。②こどもの成長発達と健康レベルに応じた援助について説明できる。③こどもの成長発達と健康レベルに応じた援助を適切に実践できる。④こどもと家族を支援するチームにおける看護の役割について説明できる。⑤看護専門職としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。

4日間の医療施設実習 (臨地2~4日、オンラインもしくは学内0~2日)、3日間の保育施設実習 (臨地1日、オンライン2日)、3日間の学内実習 (オリエンテーション、シミュレーションなど) で構成した。

3 模擬電子カルテを用いたシミュレーション実習「こどもの安全を守る看護」

3.1 目標

シミュレーション実習の目標は以下の3つである。①こどもの発達段階に応じたプレパレーションを安全に実施できる。②こどもの発達段階や個別性に応じたかかわりを工夫できる。③こどもの意向や主体性・自律性を尊重したコミュニケーション

ョンがとれる。

3.2 課題

事例：千葉元気くん（4歳1か月男児）、母親と2人暮らし。急性胃腸炎と診断され、治療目的で入院となる。症状改善し入院3日目で退院予定であったが、母親に同様の症状が出現したため、退院延期となる。体調が改善したこと、面会者がいないことから、病室内やプレイルームを走るなど危険な様子がみられている。

課題：回復した元気くんと入院中の他のこどもたちの安全を守るため、受け持ち学生としてプレパレーションを実施する。個人ワークで元気くんプレパレーションを実施する根拠についてアセスメントをした後、グループで援助計画を立案し、実施（実習最終日にロールプレイ発表）する。なお、プレパレーションは元気くん1名への実施、他の入院児も含めた複数名に実施、いずれも可とした。

3.3 プレパレーションとは

入院生活や治療・検査・処置などによるこどもの不安や恐怖を最小限にし、心理的準備を促すこと。治療や処置などの中にこどもが決定する機会を組み入れ、主体的な参加を促す。こどもの権利、倫理的配慮に基づく小児看護学教育の教授内容であり、講義、学内演習、臨地実習で実施されている[5]。

3.4 教材

事例の情報収集源として教育用電子カルテ（Medi-EYE, Medi-LX社）を用いた。内蔵されていた事例データの一部を変更し、本実習事例に即した情報を掲載した。また、対象となる小児をイメージできるように、看護教育用ビデオ「子どもの安全を守る看護」（筒井真優美監修）に登場する小児1名を千葉元気くんと想定した。

3.4 実習の進め方

1グループ3～6名で、「プレパレーションとは」について全員で確認後、個人ワークで模擬電子カルテから情報を収集し、入院3日目の身体面、心理面、社会面の3側面についてアセスメントを実施した。更に、3側面のアセスメントを基に元気くんプレパレーションを実施する根拠の記述を

求めた。これらの個人ワークに取り組む時間は80分以内とし、アセスメントに必要な情報のみを収集するように課した。その後、アセスメント内容をグループで共有し、援助計画の立案、必要時プレパレーションツールの作成、ロールプレイ発表練習にグループで取り組んだ。

ロールプレイ発表は、実習最終日に1グループ5分以内でプレパレーションの実施とし、元気くん役は、事前打ち合わせなしで行えるよう、他のグループ学生の担当とした。また、学生のピア評価は、学修支援システム（WebClass）のアンケート機能を使用し、以下の6項目について「とてもあてはまる」～「あてはまらない」の5件法で実施した。①こどもと話すときは、こどもの目線に立っていた。②こどもの理解力にあわせた内容であった。③こどもの集中力にあわせた方法であった。④事実に基づき、正直に話していた。⑤こどもの反応を読み取りながら実施していた。⑥話したこどもの様子を観察できていた。以上のピア評価の結果は、全グループの発表後直ちに公開し、教員からのコメントと共にフィードバックした。

4 取り組みの成果および考察

「こどもの安全を守る看護」のシミュレーション実習は、昨年度は紙面での簡単な事例提供のみとし、プレパレーション援助として行う援助計画の立案と、ロールプレイ準備に取り組む半日実習としていた。今年度は模擬電子カルテを用いたことで、情報収集、アセスメント、計画立案という一連の思考過程を踏むことを目指した1日実習となった。短時間で必要な情報を選択しながら収集し、アセスメントに取り組むことは、実習クールの早い時期に配置された学生では、3年次までの網羅的な情報収集から焦点化した情報収集へ転換が難しく、情報収集に時間をかけすぎてしまう傾向がみられた。しかし、他領域での実習経験を重ねることで、時間内にアセスメントまで取り組むことが出来るようになり、看護師の実践に近い体験となったと考える。電子カルテは、診療録や看護計画、検査結果、注射指示などが分かれて記載されているため、必要な情報を明確にして意図的収集することが求められる。そのため、不十分な情報でアセスメントすれば、その内容にも違いがでてくる。今回、アセスメントの共有を行ったことで、各自の情報不足や、視点の偏り、不足点に気づくことができ、アセスメントを深めることに

つながった。臨地実習のように様々な事例を共有することは出来ないが、同一事例を用いることによる成果と考える。

本シミュレーション実習は、保育施設での臨地実習の翌日もしくは前日に配置している。そのため、4歳児の発達段階を考慮し、紙芝居や寸劇などを用いて、こどもが参加することを意図した援助計画を立案することができていた。一方、保育施設での集団を対象とした健康教育のイメージが強く、模擬電子カルテを用いて実施した、元気くん個人の3側面のアセスメントを十分に活用できない傾向がみられた。特に、退院が延期となり、母親に会えずに一人で過ごしているこどもの心理面についてアセスメントをしていますが、それに対する計画立案、実践につなげたグループは少なかった。集団を対象とした健康教育の計画を立案し、実施すること、またそこに参加する個人を援助する視点をもって計画を立案し、実施することの違いを理解することが課題となった。個人を援助する視点は、個別性のある看護につながるものであり、プレパレーションの実施とピア評価を経ることで、理解は深まったが、援助計画を立案する際の根拠として、3側面のアセスメントを統合し、全人的な対象理解となるような学修機会となるようにしていく必要がある。

参考文献

- [1] 内閣府、令和4年版 少子化社会対策白書 全体版、p2-4、2022。
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2022/r04pdfhonpen/pdf/s1-1.pdf>
- [2] 厚生労働省、令和3(2021)年 医療施設(動態)調査・病院報告の概況、p12、2022。
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/iryosod/21/dl/11gaikyou03.pdf>
- [3] 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会、看護学実習ガイドライン、p3、文部科学省、2020。
https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt_igaku-000006272_1.pdf
- [4] 新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議報告書 p1-6、文部科学省、2021。
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/faculty/pdf/report_uniforcovid19.pdf
- [5] 大森裕子、岩瀬貴美子、友田尋子、看護系大学におけるプレパレーションに関する教育の現状、日本小児看護学会誌、26巻、p132-137、2017。